

令和2年4月、皆様のご支援を賜り、鹿児島市議会に送っていただきました。新人議員が未知の世界で力を発揮するのは容易ではありません。しかし、皆さまの大きな期待と温かい眼差しを背に、“一隅を照らす”精神で一生懸命に取り組んできました。鹿児島を一步でも前に進めることで皆さまに恩返しをしたい。今後ともその一心で全力疾走しますので、変わらぬご支援を賜りますよう、そして、支援の輪を広げ、より大きな力を私に授けていただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

令和5年吉日  
鹿児島市議会議員 山下 要

## 山下 要 プロフィール

1972年1月24日 鹿児島市生まれ

- 1978年(昭和53年) 一之宮幼稚園を卒園
- 1984年(昭和59年) 鹿児島大学附属小学校(33期生)を卒業
- 1987年(昭和62年) 鹿児島大学附属中学校(36期生・野球部)を卒業
- 1990年(平成2年) 鹿児島県立甲南高等学校(41期生・硬式テニス部)を卒業
- 1991年(平成3年) 青山学院大(法学部)を中退
- 1993年(平成5年) 陸上自衛隊に入隊し、新隊員教育を修了。その間、防衛大学校を受験
- 1997年(平成9年) 防衛大学校(国際関係学科・ラグビー部)を卒業
- 2002年(平成14年) 防衛大学校(総合安全保障研究科)で修士号を取得

- 輸送小隊長(真駒内)、輸送中隊長(朝霞)等を歴任
- 防衛大臣官房広報課で広報誌「MAMOR」を担当(市ヶ谷)
- 陸上幕僚監部情報課で朝鮮半島の分析を担当(市ヶ谷)
- 外務省に出向し、在米国日本大使館で防衛駐在官として勤務(ワシントンD.C.)
- 陸上自衛隊中央輸送隊で副隊長として勤務(横浜)
- 陸上自衛隊を依願退職(1等陸佐)



生まれ変わっても、  
また鹿児島がいい!!



鹿児島市議会議員

# 山下 要

やま し た かなめ



公式HP



公式LINE

〒891-1105 鹿児島市郡山町6249

☎ 080-7820-7825

## 山下 要 YAMASHITA KANAME の約束

責任ある強い個に裏づけられた  
正しく優しい社会を実現します。

全ての市民がワン・モア・ステップ・アップ!  
個の稼ぐ力を高め、社会の豊かさを向上します。

One For All, All for Children  
全ての世代が分かち合う社会  
全員で子どもたちを支える社会を構築します。

歴史と伝統を継承し、50年先を見据えた  
未来志向で謙虚なまちづくりを推進します。

最悪を想定した厳しい訓練と万全の備えにより、  
あらゆる災害等から市民の生命と財産を守ります。

郡山、松元、吉田、喜入、桜島の合併5地域をはじめ  
とする農村地域の均衡ある発展に取り組めます。

元自衛官を自負し、常に誠実な議員活動を通じて、  
市民と政治の信頼と絆を回復します。

### なぜ、市議会議員になった?

自衛官になる前、20代の時にも政治への思いはありました。でも、その頃の私には全然自信がなかった。しかし、22年間、自衛隊で統率を学び、組織力で任務を遂行する経験をし、今なら出来る。自衛隊で修養した力をふるさと鹿児島のために役立てたい。そのように思いました。

### 自衛隊の統率、組織力とは?

自衛隊は有事(戦場)で力を発揮する必要があります。不確かな情報の中での判断能力、過酷な状況の中での実行力が問われます。率先垂範、全人格をもって隊員の使命感を涵養し、部隊を鍛え上げ、指揮するのが指揮官の統率です。また、周到な計画と柔軟な運用によって、数々の専門職種を有機的に連携させ組織力を発揮します。

### 日々の仕事やプライベートの過ごし方は?

はつきり言って仕事人間ですね(笑)。議会に行くのは時間の3分の1程度ですが、その他の時間は土日関係なく、要望対応や地域活動に明け暮れています。

鹿児島での新生活に賛成してくれ

### 鹿児島市に何を思う?

日本は人口減少・少子高齢化という静かな有事のさなかにあります。国を挙げて、この国難を乗り切らなければなりません。私はこの戦いを「撤退戦」になぞらえています。人口増加と高度経済成長で伸び切ってしまった戦線、時間をかけて縮めながら、同時に力を充実させるのです。生活インフラを上手にたため、社会保障にかかる負担を長期に全世代で分かち合う「守り」の政策。同時に、将来世代のための投資としての「攻め」の政策。私自身が高齢者になるま

での今後15年は平穏は訪れませんが、少し悲壮感が強すぎましたかね(笑)。自衛隊が任務を遂行する時に、もう一つ大事なものを忘れていません。それは楽観であり笑顔です。鹿児島市民が笑いながら、15年の希望という名の「撤退戦」を戦うのです。それぞれの持ち場で「隅を照らす」精神で光を放つことで、将来は必ず拓けると信じています。私も私の持ち場で、私たちの戦いに貢献したいと思っています。

